

7. ハダ着材料の吸水性について

静岡大教育

小出 直人

石原 道子

1. 化繊製品の進出には著しいものがあり、豊かな生活への意欲のもりあがりは見逃せられない。中でも、下着類の材料にも繊維別に多種類見られるようになり、従来綿に限るといわれた頃とは隔世の感がある。そこでこれら多くの材料について衣服機能上から再検討することが消費科学上重要なことと思われる。そこで、市販のハダ着材料について吸水性とその機構について実験した。

2. 吸水は汗ばんだハダに材料が接着した場合を人工汗液で浸潤せしめた脱脂綿上に試片を置くことによって実験的に再現せしめて行なった。含水率の経時変化を乾燥重量法によって追跡し吸水曲線を求めた。

3. (1)各材料の吸水曲線は大いに相違しておるが、大体繊維別では綿>レーヨン>合繊の順に吸水性が低下している。また得られた曲線の傾向の相違を図から3段階(初期吸水、増率吸水、律速段階)を経て平衡に至るものとそれぞれ分割して比較した。(2)吸水性の大小と材料の構造物性との関係についても二、三の結果が得られた。(3)これらの曲線は普通の洗たくのくり返しによって多少増減するが、その変移は各材料により区々である。